様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：１３３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３７０５８６

研究課題名（和文）アカデミックＣａｎ－Ｄｏグリッドに基づく日本語教材モデルの設計

研究課題名（英文）Development of the Prototype of Japanese Language Learning Material Based on the Academic Can-do grid

研究代表者
深川　美帆（FUKAGAWA, Miho）

金沢大学・国際機構・准教授

研究者番号：００５８３１７１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，日本の大学等の高等教育機関で学ぶ日本語学習者が必要な日本語およびアカデミック・スキルを，can-do statementによる能力記述文により提示し，その能力記述の目標を達成するための学習項目と教材を関連づけたコンテンツ「アカデミックCan-doグリッド」の構築を目指すものである。これは，能力記述とそれに対応した教育コンテンツが複合的につながった，実用性の高い教材モデルとなる。さらにこれは，第二言語としての日本語教育のみならず，第一言語としてのアカデミック日本語教育，すなわち日本人大学生へのアカデミック日本語教育にも大きく貢献できるものである。

研究成果の概要（英文）：The research objective is to develop the prototype of new Japanese language learning material for the international students who need the academic skills to study/research in university of Japan. This material is consists of essential tasks which the Japanese learner would experience in academic settings. The skills which are required for these tasks are expressed by “can-do statements”and authentic materials which are used in the practical academic settings. Through the study with this material, learners will be able to acquire the academic skills and Japanese language skills.Through the research for the development of the prototype, new perspectives for academic Japanese language teaching were provided.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教育　アカデミック・スキル　アカデミック・ジャパニーズ　Can-do statement　教材開発

１．研究開始当初の背景

日本の大学で学ぶ留学生への日本語教育，いわゆるアカデミック・ジャパニーズについては，これまでにも日本語教育の中でその研究の成果が数多く積み重ねられ，教材化もなされているが，これらの多くは「レポートを書く」「講義を聞く」といった特定のスキルに偏りが見られ，また日本語力の育成を主眼としたものがほとんどであった。我々は，実際に大学等の高等教育機関で学ぶ留学生が大学での研究・勉強に必要なスキルは，いわゆる従来のアカデミック・ジャパニーズに加え，留学生が大学というコミュニティに属して研究・学習を行っていく上で必要な，より多様なスキルやストラテジーが必要であると考え，日本語力とアカデミック・スキル習得のための教育内容を関連づけた新たな教材の開発を目指すに至った。

２．研究の目的

本研究は，日本の大学等の高等教育機関で学ぶ留学生（日本語学習者）が必要な日本語およびアカデミック・スキルを，can-do statement による能力記述文により提示し，その能力記述の目標を達成するための学習項目と教材を関連づけたコンテンツ「アカデミック Can-do グリッド」の構築を目指すものである。その具体的な特徴は以下のとおりである。

(1)アカデミック・ジャパニーズ／スキルの可視化：アカデミックな場面での行動目標に応じてどのような学習が必要なのかを can-do statement で示し，学習者自身をはじめ，教師等，彼らの周囲の関係者にも学習の見通しや目標を可視化することができる。

(2)authentic な「よきモデル」による習得：ジャンルやスキルごとに authentic で良質な実例（モデル）を多数提示することで，学習者自身がそれを用いてスキルを習得できる。

(3)拡張・発展可能な教材リソースの提供：学習項目と教材を関連づけた教材コンテンツの集合体である「アカデミック Can-do グリッド」を構築することで，日本語教師はもとより学習者自身がそのコンテンツにアクセスし自身の学習目的に合わせて自律学習ができるようになる。

こうした特徴を備えた本研究で目指す教材コンテンツは，能力記述とそれに対応した教育コンテンツが複合的につながった，従来にない，実用性の高い教材モデルとなる。さらにこれは，第二言語としての日本語教育のみならず，第一言語としてのアカデミック日本語教育，すなわち日本人大学生へのアカデミック日本語教育にも大きく貢献できるものである。本科研では，この教材コンテンツのプロトタイプを作成することを目的とした。

３．研究の方法

まず，これまでのアカデミック・ジャパニーズにおける先行研究のレビューおよび市販されている現行のアカデミック日本語教材の分析を行い、従来のアカデミック・ジャパニーズ研究において取り上げられている，日本の大学で学ぶ留学生が大学生活・研究生活を送る上で必要とされている能力にはどのようなものがあるかを分析した。加えて，留学生が大学での実際の学習で求められるアカデミック・スキルにおいて，具体的にどのような点でつまずいているかを明らかにするために，留学生が演習型授業において作成したレジュメを分析し，日本人学生のそれと比較することにより，留学生が直面している問題点について分析した。

これと同時に，昨今の大学教育において求められているアカデミック・スキルについても先行研究をレビューし，かつ大学初年次教育の分野でのアカデミック・リテラシー教材の分析を行った。

これらの調査・研究の成果をもとに，アカデミック・スキルと日本語力の能力記述を作成し，それを習得するための教材コンテンツを作成した。さらに，その試作版を実際に留学生向けの日本語コースで２学期間試用し，そこで見出された問題点や学生からのフィードバックを参考に改良を進め，教材のプロトタイプを完成させた。

４．研究成果

これまでに，以下の成果を学会等において発表した。

(1)演習発表型授業でのレジュメにおける問題点の考察（平成 25 年度）

日本のアカデミック場面でよくある演習形式の授業で作成するレジュメには，他のアカデミックな場面での課題（レポート，プレゼンテーション等）においても必要とされるスキルが多く含まれている。そこで，レジュメ作成においてどのような問題があるかを，留学生と日本人学生が作成したレジュメを分析し，アカデミックな場面における日本語教育にどのような教育・支援が必要かを明らかにした。

その結果，留学生，日本人学生の双方に，引用にかかわる問題（妥当な分量以上に引用が記されている例，引用部分と発表者自身の考えとが明確に分離されていない例，引用箇所の適切な提示がない例）が観察された。また，アカデミック分野におけるテーマ設定の失敗やレジュメ内での論理の不足，また適切な情報収集ができていないことも明らかになった。こうしたスキルは既に初年次教育のテキスト等で多く取り上げられているものの，学習者がこれらのスキルを適切に運用できるようになるためには，学習者に理解可能な形で提示され，指導されることが必要であることがわかった。

(2)アカデミック・ジャパニーズイメージモデルと新規教材開発に向けての既存教材の特性分析（平成 26 年度）

これまでのアカデミック・ジャパニーズの先行研究を踏まえて，あらためて具体的なアカデミック・ジャパニーズ像を描き出し，それに照らして現行のアカデミック・ジャパニーズ教材を調査し，その特性を分析した。

その結果，現行の教材では，＜日本語力＞の高い学部留学生には初年次教育用教材，そして＜知識＞や＜問題発見解決力＞がある程度習得できている大学院生や研究生には，日本語技能指導用の中上級教材で対応できることがわかった。しかしながら，＜日本語力＞がまだ不十分で，＜知識＞も限られ＜問題発見解決力＞も未熟である学部留学生に適した教材がほとんどないことが明らかになった。特に，学部正規留学生は大学初年次に日本語授業を履修することが多いと想定されるので，＜知識＞については大学での専門科目などの学習支援をしつつ，限られた＜日本語力＞を伸ばしながら＜問題発見解決力＞も育成できる教材の開発が必要であるという，今後の教材開発への示唆を得た。

(3)大学初年次留学生のためのアカデミックジャパニーズ総合教材の開発（平成 27-28 年度）

これまでの研究成果をもとに，アカデミック場面で必要な日本語力とアカデミック・スキル育成のための新たな教材の作成を試みた。この新アカデミック・ジャパニーズ教材の内容は，これまでのアカデミック・ジャパニーズ教材で取り上げられている，大学で必要とされている能力に，これからの大学や社会で求められるとされる，「21 世紀型スキル」などをはじめとする，いわゆる＜新しい能力＞の理念を適用したものである。

この教材は，「アカデミック文章の特徴」「ノートを取る・コメントシートを書く」「情報検索をする」「情報を読み解く」「要約する・引用する」「論理構成を考える」「レジュメを作る」「プレゼンテーションをする」「レポートを書く」といった，アカデミック場面で要求される課題から成っており，それぞれの課題の遂行に要求されるスキルが can-do statement によって示されている。教材の素材には，大学初年次において正規留学生が遭遇する，実際の講義に近い形・内容の聴解教材や，教養科目や学部の授業で使うテキストや配布資料を想定した読解資料を使い，言語表現理解レベルでの読解だけでなく，既得知識との関連付けや類推，比較対照，論旨抽出，要約，批判など，資料から得た情報を知的に分析し新たな課題の発見解決に結びつけるまでを，１つの教材の中で総合的に行い，学習者自身が能動的に課題に取り組むことでこれらのスキルを身に付けることをねらいとしている。学習者は，自分の日本語レベルと学びたい内容を選んで学習できるよう，教材の難易度とジャンルをモジュール形式で構成している。

これを実際に留学生の日本語コースで試用した実践研究の成果を，翌年度（平成 29 年度）の日本語教育学会春季大会で発表した。本研究で作成したプロトタイプをもとに，今後はさらに内容を充実させ，教材コンテンツとして広く利用できるようにする予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　１件）

① 深川美帆・深澤のぞみ・札野寛子・濱田美和「外国人留学生と日本人学生へのアカデミック・スキル指導についての考察 ―演習型授業におけるレジュメの分析から―」金沢大学留学生センター紀要，第 19 号，査読有，pp.55-68，2016.
http://hdl.handle.net/2297/45326

〔学会発表〕（計　３件）

① 深澤のぞみ・札野寛子・濱田美和・深川美帆「大学初年次留学生のためのアカデミックジャパニーズ総合教材の開発」日本語教育学会 2017 年（平成 29）年度春季大会，ポスター発表，査読有，早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区），2017 年 5 月 21 日

② 札野寛子・深川美帆・深澤のぞみ・濱田美和「アカデミック・ジャパニーズイメージモデルと新規教材開発に向けての既存教材の特性分析」日本語教育学会 2014（平成 26）年秋季大会，ポスター発表，査読有，富山国際会議場（富山県富山市），2014 年 10 月 12 日

③ 深川美帆・深澤のぞみ「演習発表型授業でのレジュメにおける問題点の考察 ―留学生と日本人学生のアカデミック・スキルに注目して―」，第 16 回専門日本語教育学会研究討論会，口頭発表，査読有，富山大学五福キャンパス（富山県富山市），2014 年 3 月 1 日

６．研究組織

(1)研究代表者
深川　美帆（FUKAGAWA，Miho）
金沢大学・国際機構・准教授
研究者番号：０ ０ ５ ８ ３ １ ７ １

(2)研究分担者
深澤　のぞみ（FUKASAWA，Nozomi）
金沢大学・歴史言語文化学系・教授
研究者番号：６ ０ ３ １ ３ ５ ９ ０

札野　寛子（FUDANO, Hiroko）
金沢工業大学・基礎教育部・教授
研究者番号：２０２２９０９０

濱田　美和（Hamada, Miwa）
富山大学・国際交流センター・教授
研究者番号：２０２８３０５４